新日軽 自転車置場ニューパオ 組立施工マニュアル

マニュアル番号 ME-1365

改－2

■ はじめに

このたびは、新日軽・「自転車置場 ニューパオ」をお買い上げくださいまして誠にありがとうございます。正しい施工をしていただくために、当説明書をお読みください。施工終了後、この取説は御施主様に必ずお渡しください。

■ 施工上の注意事項

新日軽のアルミ製品は JIS の表面処理規定を十分クリアした製品をお届けしていますが、取り扱いによっては異状腐食を起こし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点を注意してください。

①モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量にふくまれていますから腐食の原因になりますのでその使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
②モルタルやコンクリートの抽出液が工事中にアルミ製品の表面を流れないように注意してください。抽出液は強力アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になります。
③モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用があるのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・硅酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。
④施工時にアルミ製品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、表面に傷を付けますと、腐食しやすくなりますので取り扱いには十分注意してください。
⑤アルミ製品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理してください。
⑥輸入木材には塩化イオン等の腐食成分が多く含まれているものがありますのでその使用を避けていただくか、アルミと接触する場合には材木に塗装するようにしてください。
⑦腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
⑧柱内部にモルタルやコンクリートが入らないように施工時に注意してください。
⑨基礎工事の際は地下の埋設物にご注意ください。また寒冷地はその地域にあった基礎工事をしてください。
⑩地盤が軟弱な場合は、柱の埋め込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。
＊製品表面に、汚れ、ホコリが付着しないよう施工時には十分注意して取り扱ってください。
＊汚れ、ホコリが付着した場合には、軽く水で流すかテープ等の接着剤で軽くたたくようにしてください。
⑪傾斜地に設置する場合は、低い場所の柱の埋め込み深さを確保してください。

●規定・拾い出し表

部品名称	使用区分	単体		2連棟			3連棟			4連棟			5連棟	
	スパン数	2スパン	3スパン	4スパン	5スパン	6スパン	7スパン	8スパン	9スパン	10スパン	11スパン	12スパン	13スパン	
	奥行	L:16タイプ	L:24タイプ	L:32タイプ	L:40タイプ	L:48タイプ	L:56タイプ	L:64タイプ	L:72タイプ	L:80タイプ	L:88タイプ	L:96タイプ	L:104タイプ	
柱・横部材	2スパン用	1		1										柱②、前柱②、前枠①、後枠①、中間桁①、縦樋①
	3スパン用		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	柱③、前柱②、前枠①、後枠①、中間桁①、縦樋①
	連棟2スパン用			1	1		2	1		2	1		2	柱①、前柱①、前枠①、後枠①、中間桁①、縦樋①
	連棟3スパン用					1		1	2	1	2	3	2	柱②、前柱①、前枠①、後枠①、中間桁①、縦樋①
開口部材	2スパン用	1		1										端部梁②、中間梁①、中骨④、押え材③
	3スパン用		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	端部梁②、中間梁②、中骨⑥、押え材④
	連棟2スパン用			1	1		2	1		2	1		2	中間梁②、中骨④、押え材②
	連棟3スパン用					1		1	2	1	2	3	2	中間梁③、中骨⑥、押え材③
部品箱	2スパン用	1		1										部品セット一式、組立て施工マニュアル
	3スパン用		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	連棟2スパン用			1	1		2	1		2	1		2	
	連棟3スパン用					1		1	2	1	2	3	2	
屋根材 2スパン用 アクリル板	ライトブロンズ	①		②	①		②	①		②	①		②	アクリル板２枚　(775×1774×2)
	ブルースモーク													
屋根材 2スパン用 準難燃材(ポリカーボネート)	ライトブロンズ													ポリカーボネート板２枚（775×1774×2）
	ブルースモーク													
屋根材 2スパン用 アルミ板	アイボリー													アルミ板２枚　(775×1774×2)
屋根材 3スパン用 アクリル板	ライトブロンズ		①		①	②	①	②	③	②	③	④	③	アクリル板３枚　(775×1774×2)
	ブルースモーク													
屋根材 3スパン用 準難燃材(ポリカーボネート)	ライトブロンズ													ポリカーボネート板３枚（775×1774×2）
	ブルースモーク													
屋根材 3スパン用 アルミ板	アイボリー													アクリル板３枚　(775×1774×2)
○印はどちらかをお選びください。　本体合計梱包数		4	4	8	8	8	12	12	12	16	16	16	20	

●サイドパネル（波板用）

サイドパネル部材	サイドパネル枠（波板用）	2スパン用	1		2	1		2	1		2	1		2	上・下胴縁各①、縦枠②、中桟①、部品セット
		3スパン用		1		1	2	1	2	3	2	3	4	3	上・下胴縁各②、縦枠④、中桟②、部品セット
	面材（波板４尺）	3枚入	1		2	1	1		1					1	波板３枚　(1210×660)
		4枚入		1		1			2	3	1		4		波板４枚　(1210×660)
		5枚入					1	2			2	3		3	波板５枚　(1210×660)
サイドパネル部材加算梱包数			2	2	4	4	4	5	6	6	7	7	8	9	

●妻パネル（波板用）

妻パネル	妻パネル枠	波板用	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	上・下胴縁各②、縦枠④、中桟②、部品セット
	面材（波板４尺）	4枚入	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	波板４枚　(1210×660)
妻パネル部材加算梱包数			2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	

●補強桁部材

補強桁部材	2スパン用	1		1										補強桁柱②、補強桁①
	3スパン用		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	補強桁柱②、補強桁①
	連棟2スパン用			1	1		2	1		2	1		2	補強桁柱①、補強桁①
	連棟3スパン用					1		1	2	1	2	3	2	補強桁柱①、補強桁①
補強桁部品箱	2スパン用	1		1										部品セット一式
	3スパン用		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	連棟2スパン用			1	1		2	1		2	1		2	
	連棟3スパン用					1		1	2	1	2	3	2	
補強桁部材加算梱包数		2	2	4	4	4	6	6	6	8	8	8	10	

●車輪止め部材

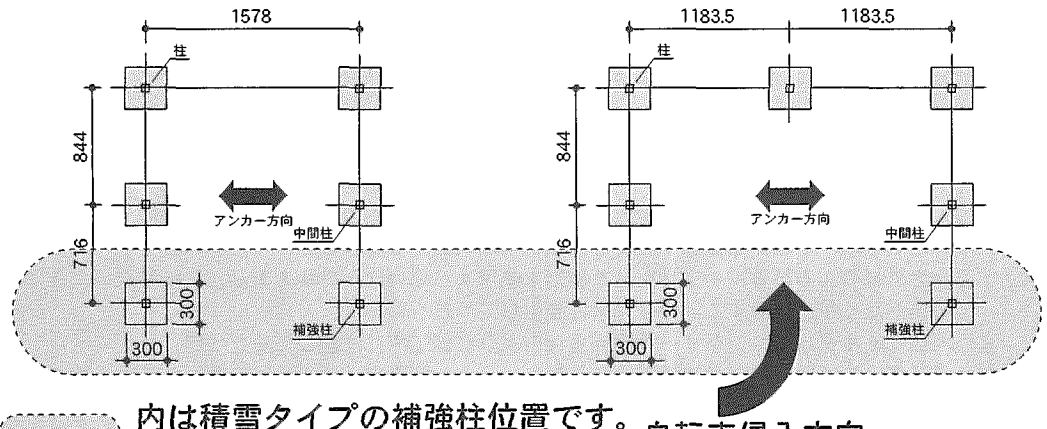
車輪止め部材	2スパン用	1		2	1		2	1		2	1		2	車輪止め部材①、カバー材①
	3スパン用		1		1	2	1	2	3	2	3	4	3	車輪止め部材①、カバー材①
車輪止め部品セット	1個入		1	1		1	1		1	1		1	1	台座①、連結金具①、ボルト・ビスセット
	2個入	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4	4	4	台座②、連結金具①、ボルト・ビスセット
車輪止めエンドキャップ	共通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	エンドキャップ②
車輪止め部材加算梱包数		3	4	5	5	6	7	7	8	9	9	10	11	

1 基礎の施工

1　柱の位置（柱ピッチ）連棟は単体の右側方向にのみ可能です。

●2スパン
連棟の場合の柱はピッチ1578mmの繰り返しとなります。

●3スパン
連棟の場合の柱はピッチ1183.5mmの繰り返しとなります。

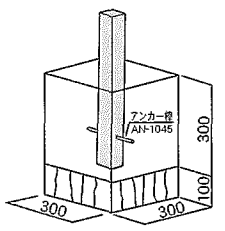


内は積雪タイプの補強柱位置です。
一般タイプは必要ありません。

2　屋根（樋）に水勾配をつけて施工してください。

3　コンクリート施工は骨組み完了後に行ってください。

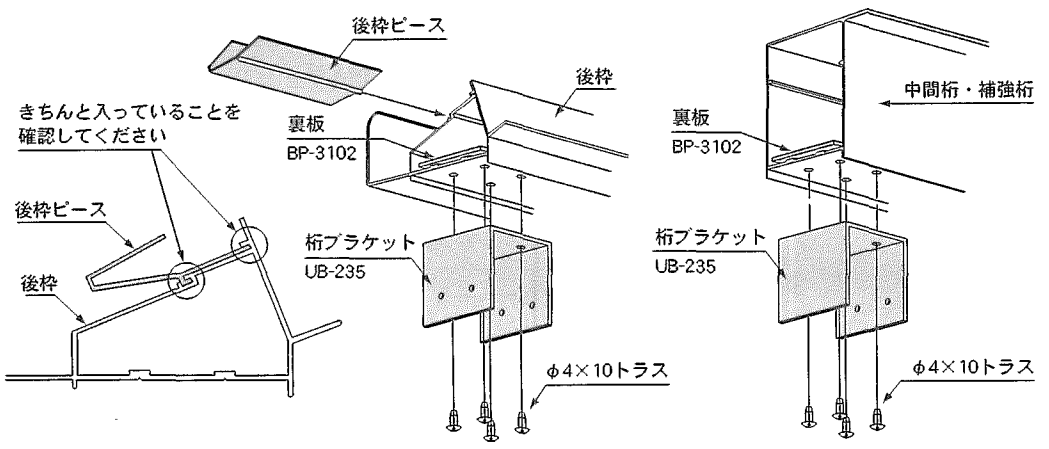
4　必ずアンカー棒を使用してください。



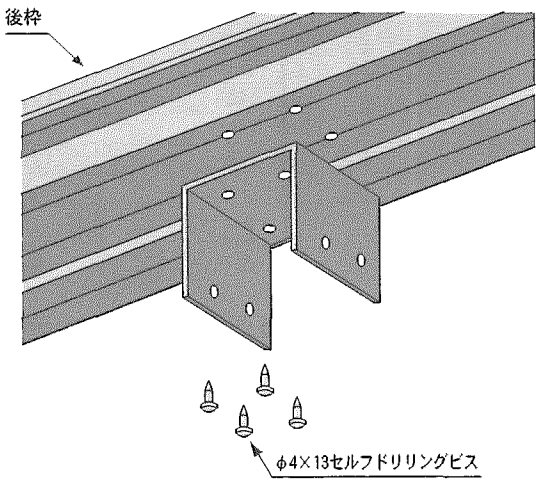
2 屋根部の組立

1　端部
・桁ブラケットを裏板にφ4×10トラスで固定してください。
・後枠ピースを後枠の溝にスライドさせて入れてください。

〈後枠〉　〈中間桁・補強桁〉

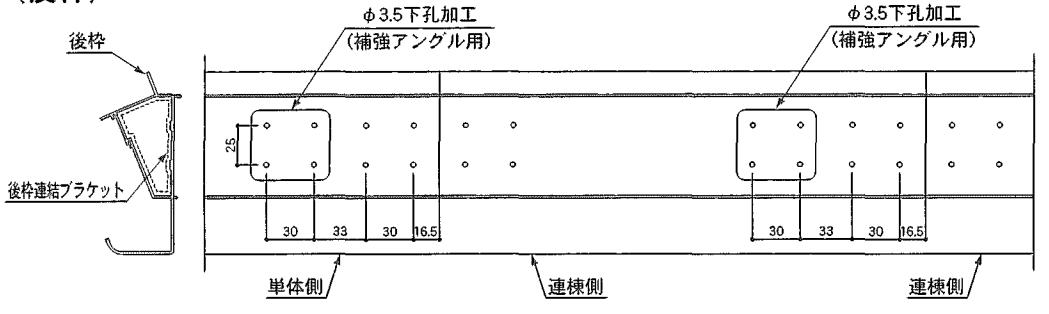


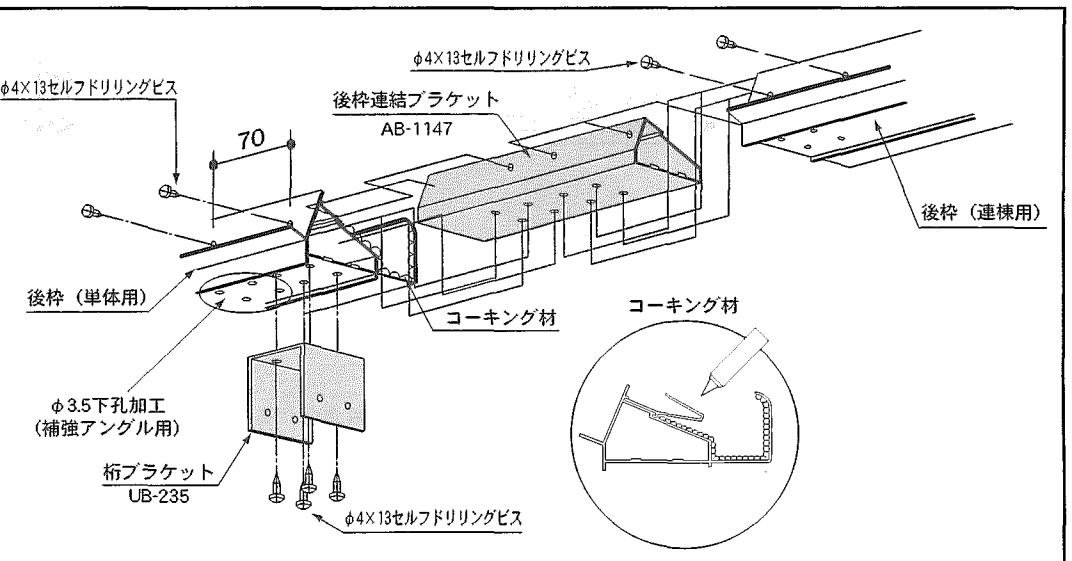
2　中間部（3スパン）
・後枠に桁ブラケットをφ4×13セルフドリリングビスで固定してください。



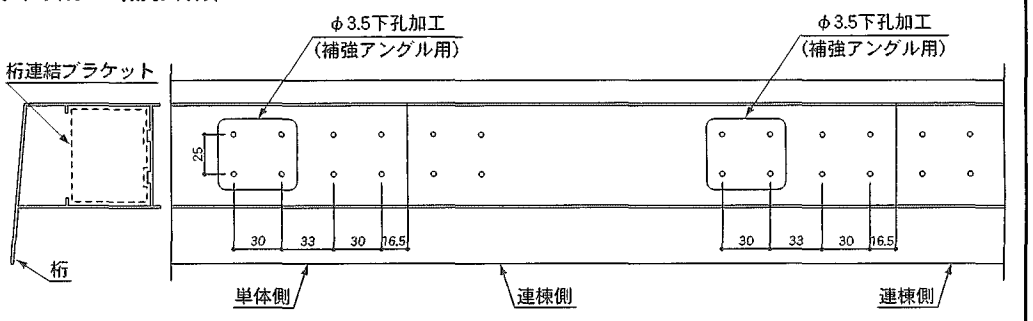
3　連結部
・連結ブラケットは、単体側に連結ブラケットを差し込み後φ4×13セルフドリリングビスで取付けてください。
・連結側を連結ブラケットに差し込みφ4×13セルフドリリングビスで取付けてください。
・後枠の連結部には十分コーキングを行ってください。
　コーキングが不十分ですと雨漏れの原因となります。
・単体側に下図の寸法を参考に、φ3.5の下孔加工をしてください。
・多連棟する際も、同様にφ3.5の下孔加工をしてください。

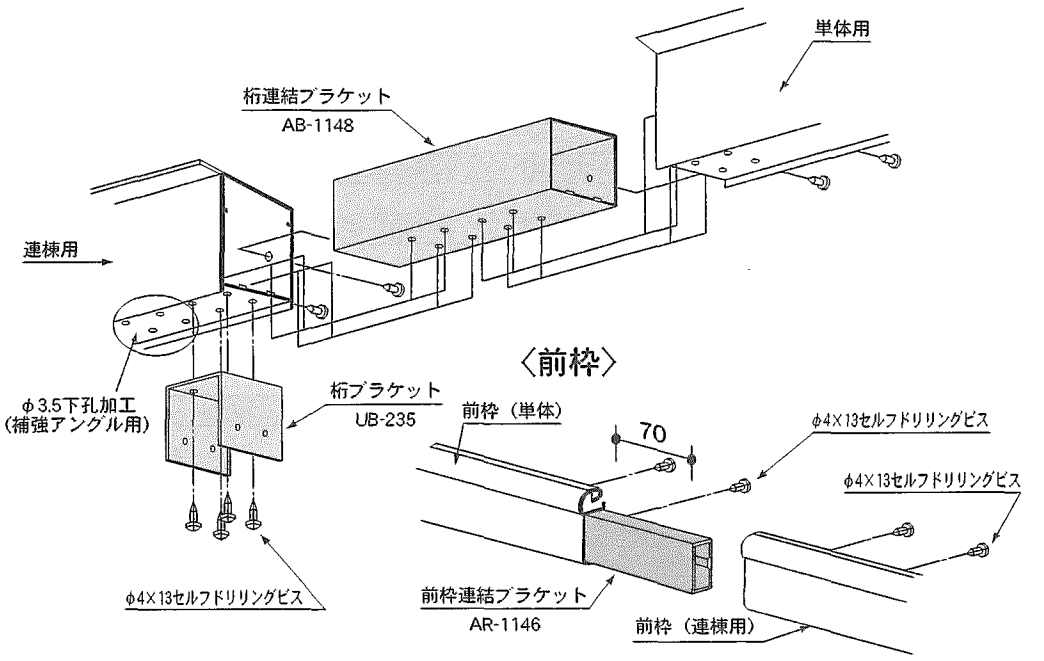
〈後枠〉





〈中間桁・補強桁〉

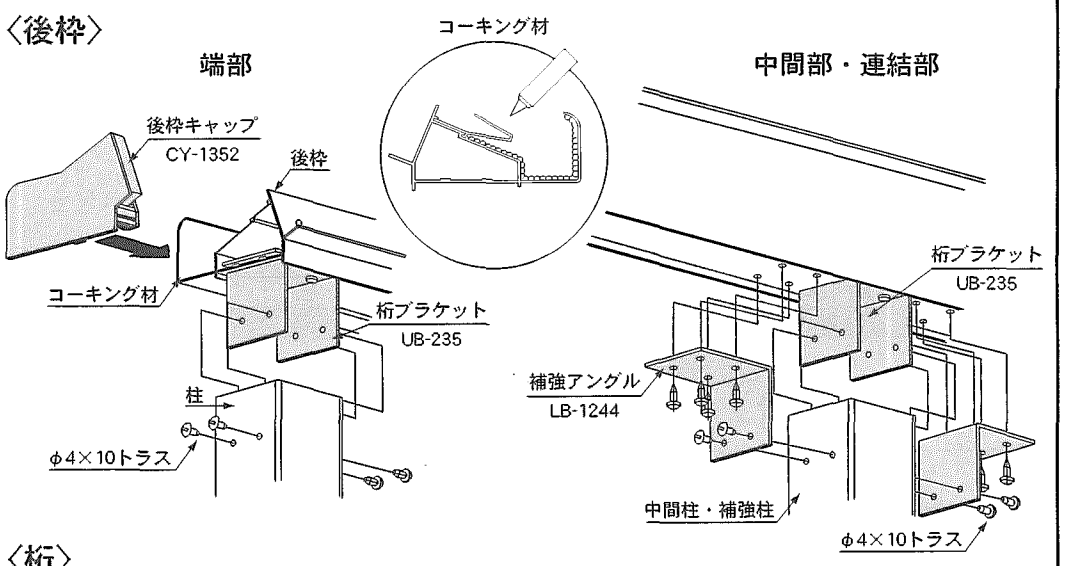




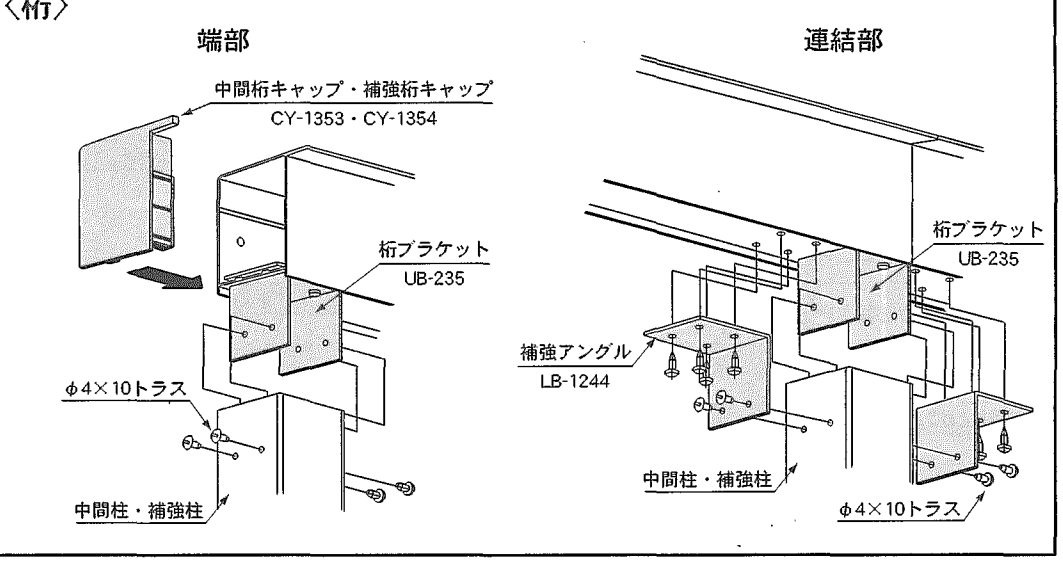
3 後枠・中間桁・補強桁の取付

・キャップはパチンと音がするまで叩き込んでください。
・後枠とキャップの継ぎ目には十分にコーキングを施してください。
・端部は桁ブラケットを柱に差し込みφ4×10トラスで取付けてください。
・中間部、連結部は、桁ブラケットを柱に差し込み、補強アングルをφ4×10トラスで共締めしてください。
　後枠・桁への固定は、φ4×13セルフドリリングビスで取付けてください。

〈後枠〉



〈桁〉

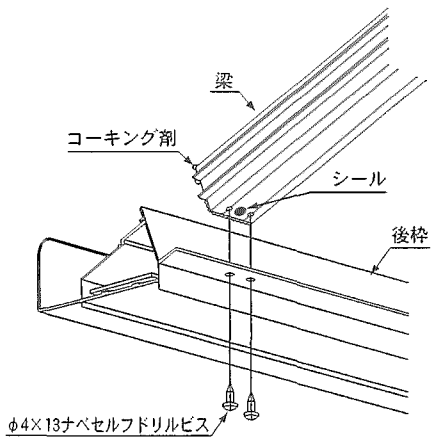


4 端部梁・中間梁の取付

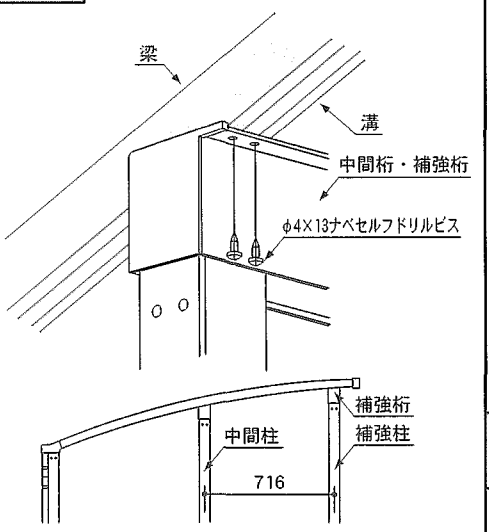
・梁に貼ってあるシールを後枠側にして
　φ４×13ナベセルフドリルビスで取付けてください。
・後枠と梁の継ぎ目には十分にコーキングを施してください。

ご注意	補強桁は積雪タイプのみ取付きます。

〈後枠〉



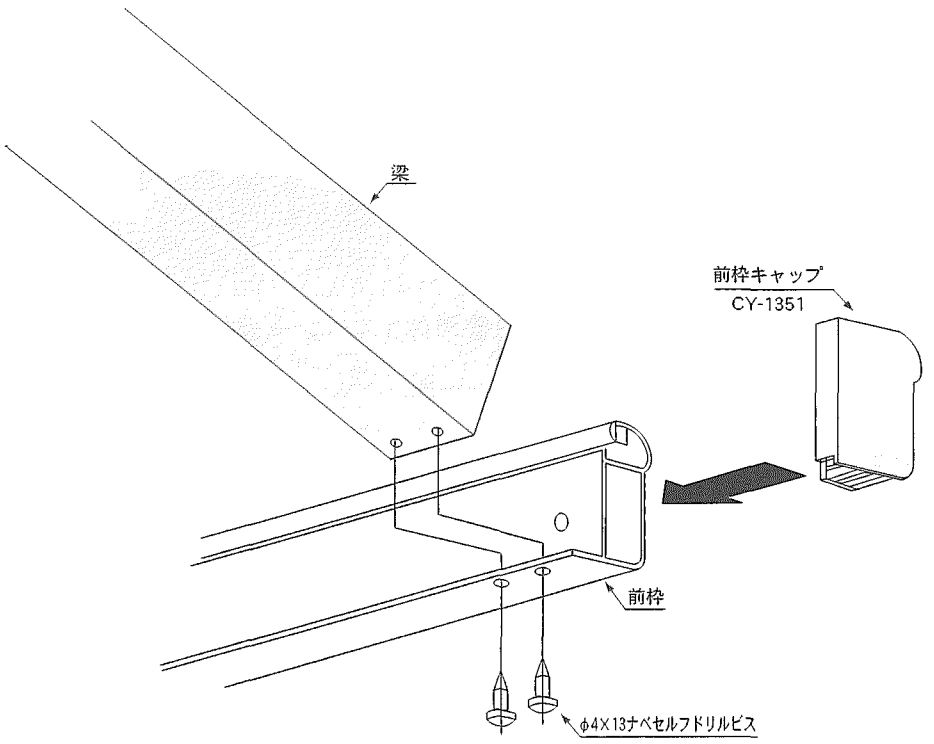
〈中間桁・補強桁〉



＊梁には補強桁の取付孔が加工してありません。
　補強桁取付の際、中間柱と補強柱のピッチ716mm の寸法で、φ４×13 ドリルネジで梁の溝に止めてください。
　サイドパネル取付の場合は、サイドパネル組立取付後、補強桁と梁の固定をお勧めします。

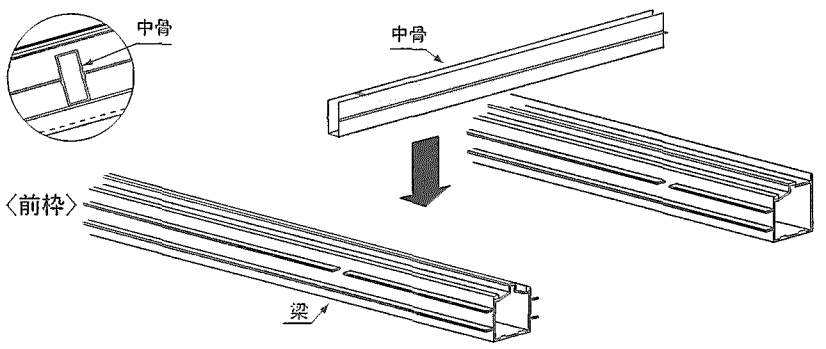
5 前枠の取付

・前枠を梁にφ４×13ナベセルフドリルビスで取付けてください。



6 中骨の差し込み

加工面を天面に！

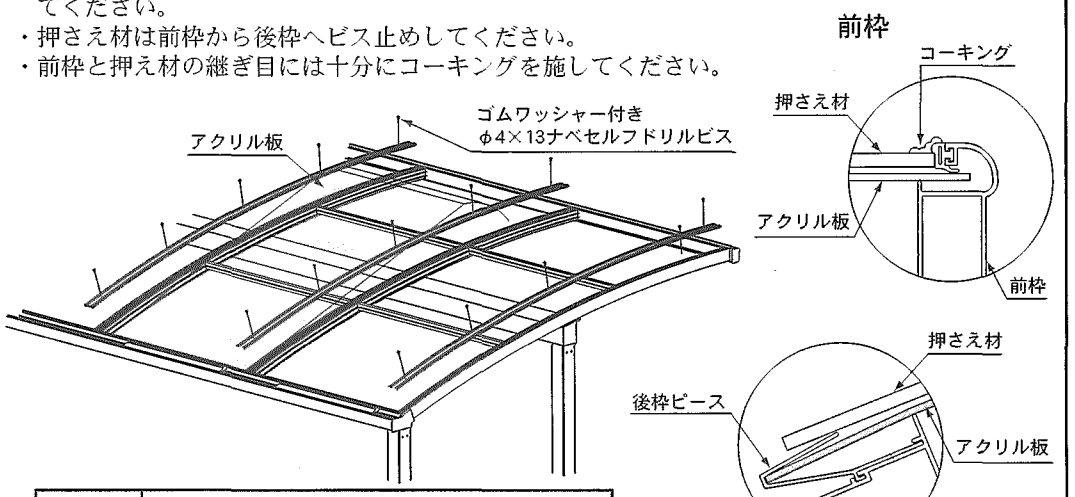


・中骨切欠き加工部分を天面に向け、梁の加工部分に「パチン」と音が鳴るまで差し込んでください。

アドバイス	中骨が入り難い時は梁を取付けたφ４×13ナベセルフドリルビスを一度緩めてください。 中骨差し込み後、再度締めてください。緩んだままだと事故の原因となります。

7 屋根パネルの組込み

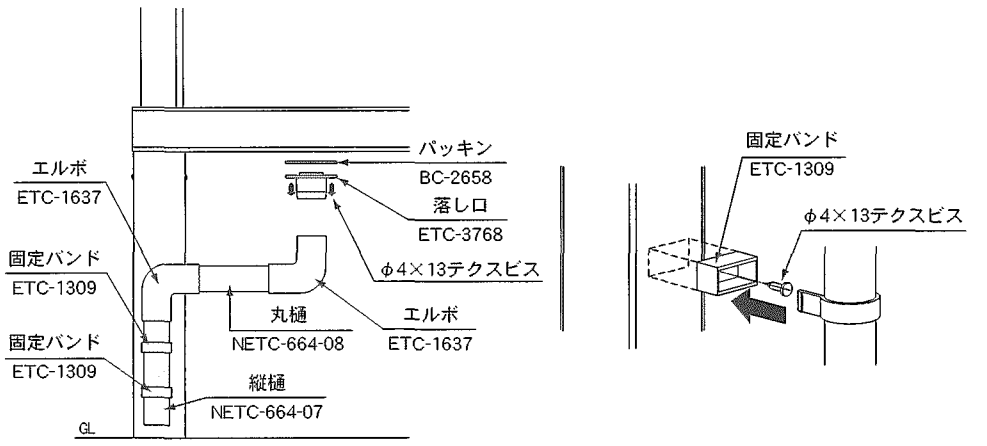
・アクリル板を前枠に差し込んでください。
・アクリル板を湾曲させ、後枠ピースに差し込んでください。
・押さえ材を前枠のビードに合わせゴムワッシャー付きφ４×13 ナベセルフドリルビスで止めてください。
・押さえ材は前枠から後枠へビス止めしてください。
・前枠と押え材の継ぎ目には十分にコーキングを施してください。



アドバイス	後枠ピースはアクリル板の中央部分にくるようにスライドさせてください。

8 雨樋の組立

1　雨樋は仮組みしてから、接着剤を使って組立ててください。
2　落し口は図のようにパッキンといっしょにφ４×13 セルフドリルビスで止めてください。
3　固定バンドは図のように柱の背面にφ４×13 セルフドリルビスで止めてください。

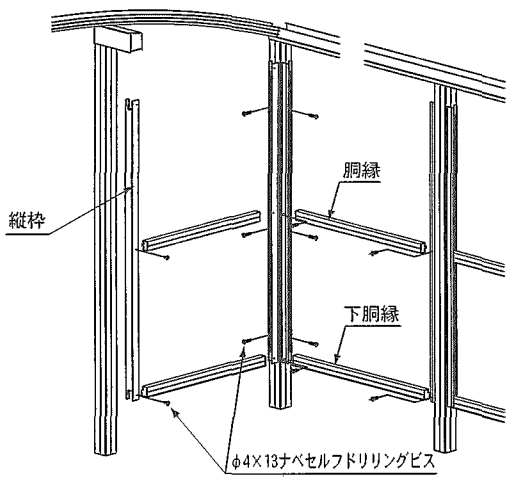


9 サイドパネル（波板）の組立

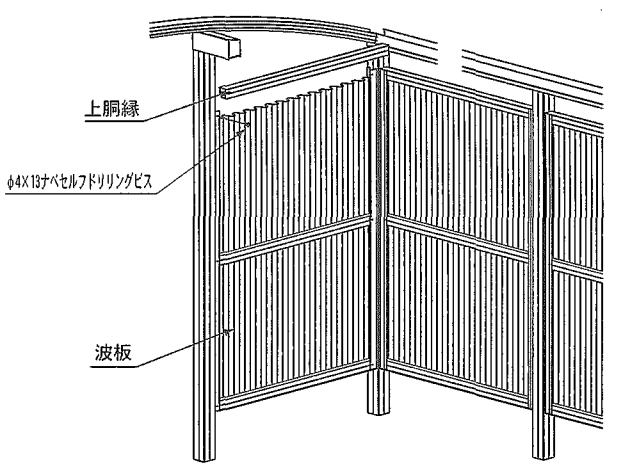
〈波板サイドパネル〉

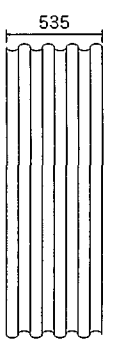
1 サイドパネル枠の取付け

サイドパネル枠取付け後、柱をコンクリート施工してください。
①　柱に縦枠を取付け、下胴縁を取付けます。水抜き穴のあいているものが下胴縁です。



②　波板を下胴縁の溝に十分差し込んでから上胴縁を止めてください。波板にピッチ200mm以下でφ７の穴をあけ、上胴縁にフック止めしてください。下胴縁には必要ありません。

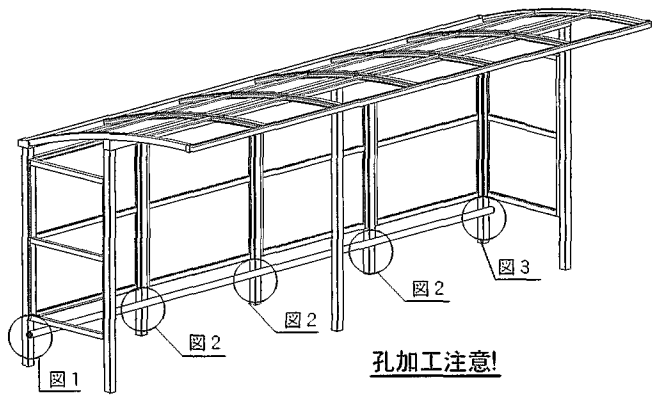




補強妻パネルを取付ける際は、
波板を535mmに加工してください。

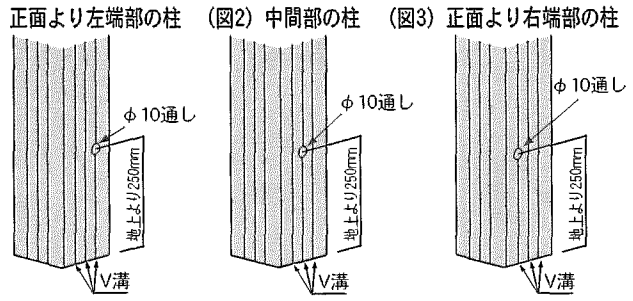
10 車輪止めの取付け

1 下図に従って柱にφ10の貫通孔をあけてください。



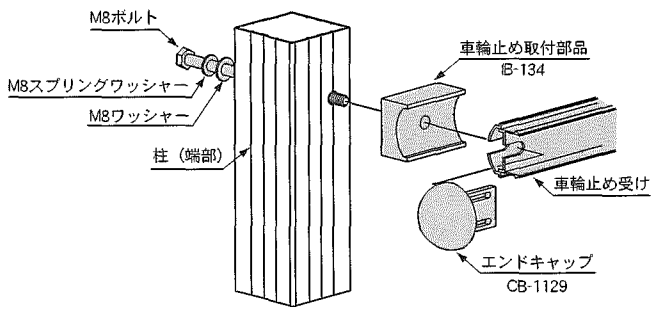
孔加工注意!

(図1) 正面より左端部の柱　(図2) 中間部の柱　(図3) 正面より右端部の柱

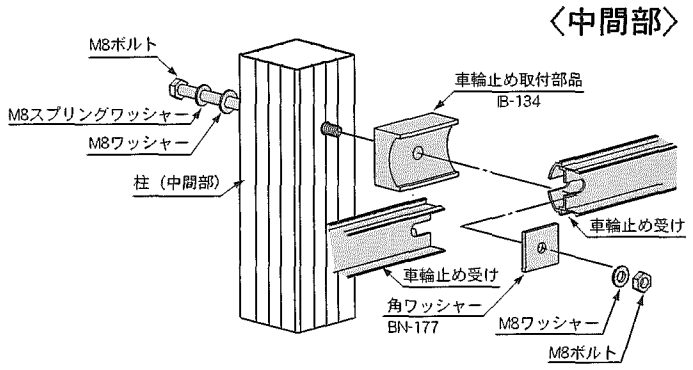


＊ 柱のV溝の位置を確認の上、孔あけ加工を行ってください。

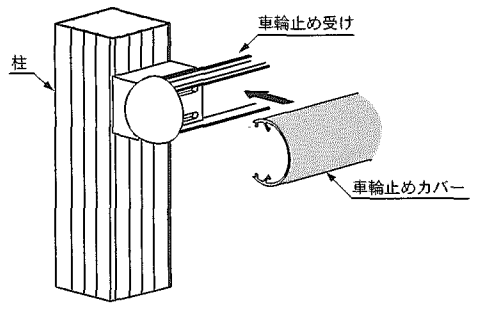
〈端部〉



〈中間部〉



3 車輪止めカバーを車輪止め受けに「パチン！」と音が鳴るまで差し込んで下さい。
連棟の場合、車輪止めカバーは、車輪止め受けのジョイント部以外の所でジョイントして下さい。

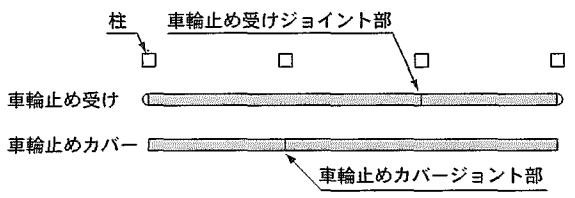


（イ） 柱に外部からスプリングワッシャーとワッシャーを入れたM8ボルトを通して下さい。

（ロ） 柱の内側に車輪止め取付部品、車輪止め受けの順で工具を使って固定して下さい。

アドバイス　締め過ぎると柱が変形する可能性があるので確認しながら締めて下さい。

ご注意

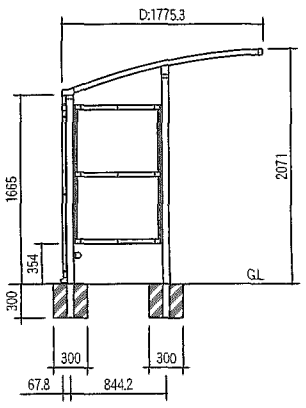


車輪止めとカバーのジョイント部は、ずらして下さい。

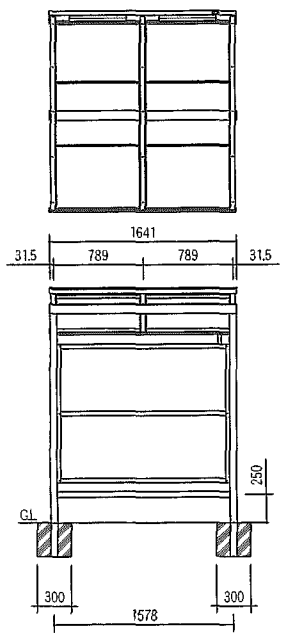
〈基本納まり図〉

■姿 図

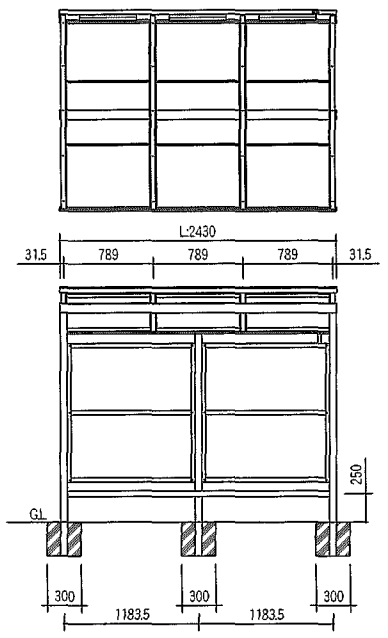
〈一般タイプ〉



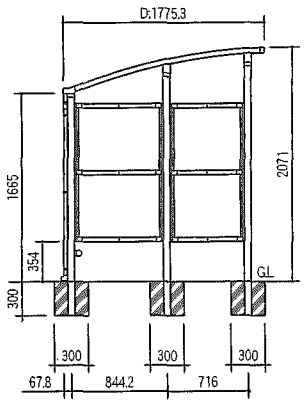
●単体2スパン



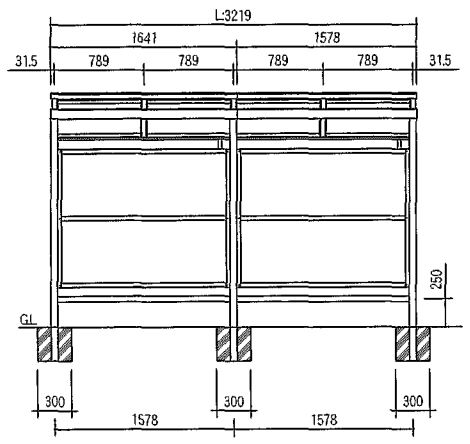
●単体3スパン



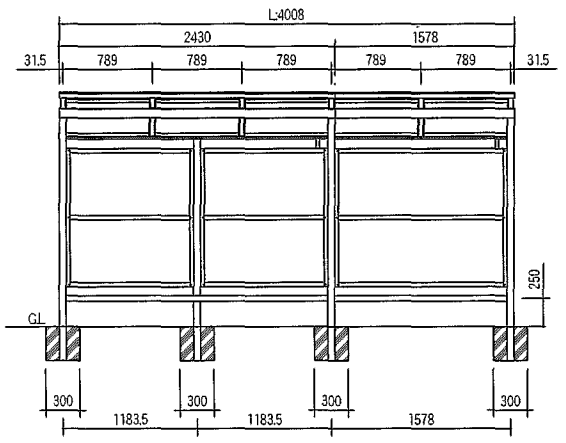
〈積雪タイプ〉



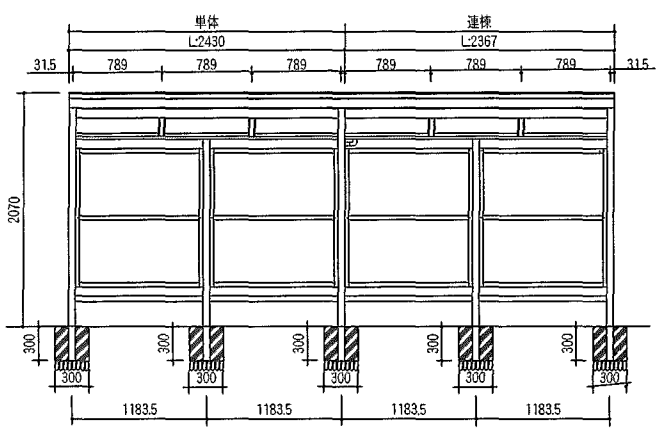
●単体2スパン＋連棟2スパン



●単体3スパン＋連棟2スパン



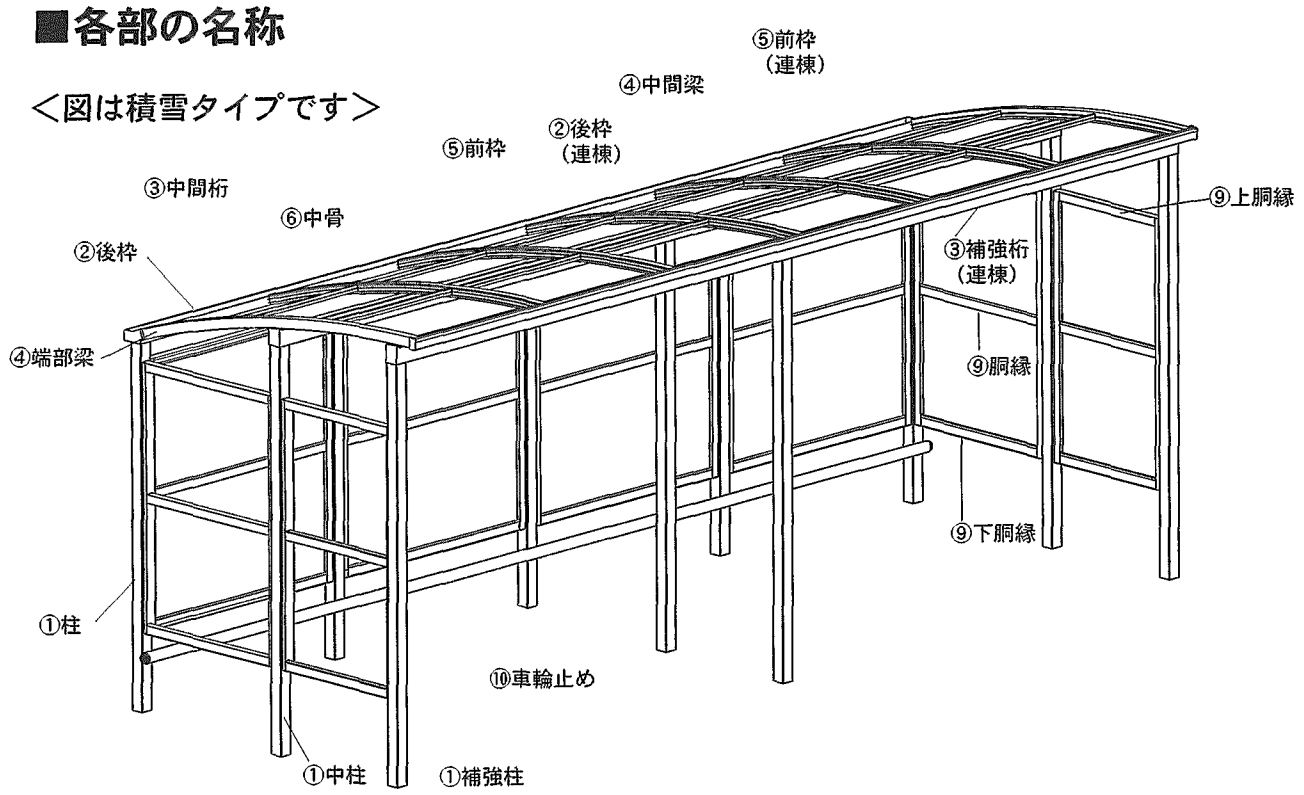
●単体3スパン＋連棟3スパン



＊連棟は図の様に単体の右側にのみ可能です。
左側には連棟できませんのでご注意ください。

■各部の名称

＜図は積雪タイプです＞



① 基礎の施工
② 屋根部の組立
③ 後枠・中間桁・補強桁の取付
④ 端部梁・中間梁の取付
⑤ 前枠の取付
⑥ 中骨の差込み
⑦ 屋根パネルの組込み
⑧ 雨樋の組立
⑨ サイドパネル(波板)の組立
⑩ 車輪止めの取付